

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年六月度 入選句（投稿総数千七百九十五句・一般投句数五百七十九句）

特選

腰ひくくして挨拶を古すだれ

大垣市

安部 芳枝

この句に出あつた時、心にぐつときた。「古すだれ」の季語がこの句を引締め、味わい深いものになっている。

昭和生れの私共には忘れさられゆく世界を醸し出すやうな懐しい句を拝見した。しとやかで美しい句です。

御手洗ひに雀顔出す梅雨晴間

揖斐郡池田町

五十川 直靖

この句は前の句とは異なり、ほのぼのとした句と思う。しとしととうつとしい梅雨も晴れると、ほつとする。水を呑みにきたのか雀が神社の手や口を浄める所へ顔を出した。唯それだけに何とも心暖たまる思ひの素敵なお秀句です。

用水路流されまいと水馬

大垣市

谷 睦月

この句は又、あの細い折れそうな足で踏ん張っている姿が目に見えるようである。ガンバツテと声をかけたい思ひです。梅雨時は水嵩も増し流れも早くなっている。生きてゆくにはそんな所にもいるのだなと何か哀れに思ふ。三句三様とても好きな句です。何か嬉しくなりました。

秀逸

糸柳影ももつれて川湊

大垣市

日比野 友子

白雲の通りあめんぼ攫はれず

岐阜市

堀江 美州

夏帽子とぼしてボール追ふ童

大垣市

傍島 隆

無住寺の深き眠りや青時雨

養老郡養老町

田中 秀子

夕焼や鴉啼くたび褪せにけり

静岡県沼津市

堀野 一郎

新緑の色を流して水門川

三重県四日市市

大井 澄代

青葉風迸り出る龍吐水

大垣市

新町 恵子

またもとに戻る話や端居して

大垣市

川口 千代子

鯉のぼり伊吹の風を一気飲み

安八郡神戸町

斉藤 美津子

牛蛙やつと返事を返しをり

京都府京都市

石田 江州

入選

胡瓜もぐ朝の雫にまみれつつ
見る程に空の深さや朴の花
朴の花高き山風まとひけり
道おしへ南木曾へ八里石畳
段々に山削ずられて美濃は初夏
夏の水脈静かに残すたらひ舟
さざなみや寄せては返す花の屑
若武者の汗したたらす兜の緒
若葉風くるりくるりとたらい舟
滴りの音のみ聞こえ山閑か

安八郡神戸町	高橋	泰
大垣市	坪井	克枝
大垣市	田中	雅子
大垣市	秋山	くに子
大垣市	佐竹	余史美
大垣市	今津	正元
岐阜市	堀江	美州
東京都世田谷区	関戸	信治
三重県四日市市	杉山	峻一
大垣市	奥田	和子

入選

薄暑光風化はげしき蔵の窓
みどりごの伸ばす手足や若葉風
紫陽花や光集めた万華鏡
木漏れ日のゆらぐ涼しさ杉木立
水音のかすかな夕べ白菖蒲
米倉の並らぶ街道小判草
風紋を残す湖面に薄暑光
護摩祈禱真言密教寺薄暑
黒板を消して明日より夏休み
安曇野の空に翠眉の風薫る

大垣市	岡田	あや子
羽島郡笠松町	易田	英明
大垣市	谷	彩虹
不破郡垂井町	傍島	法苑
大垣市	米山	方士
大垣市	久保田	悟義
大垣市	伊藤	有紀
不破郡垂井町	江崎	真一
大垣市	伊藤	鈴子
東京都江戸川区	林	日出明

選者吟

焼鮎の箸にこぼるる化粧塩

美代子